

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成20年6月9日

事業所番号	2773600313	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	有限会社 采(あや)建設工業		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム希望	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	交野市私市8丁目1番10号	評価調査日	平成20年6月6日
電話	072-810-5100	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】 (平成20年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	5人
職員数	9 常勤 2人	非常勤	5人 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物の構造	単独 木造 造り
	2階建ての (1階～ 2階部分)

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000円	その他の経費 (月額)	56,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 20万円	償還なし		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		41,000円	

(4) 利用者の概要 (5月2日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢 平均	76才	最低	70才	最高	78才
(5) 協力医療機関名	星田南病院・交野病院・さくらクリニック・奥田歯				

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

「障害があっても、住み慣れた地域で、家庭的な環境のなかで自分らしく暮らしたいという希望をかなえるホーム」の理念を掲げている。運営者を始め職員は毎朝、この理念を確認してから、一日の業務を開始している。介護の基礎は、利用者の方々への見守りと気付きから始まっているが、小さなことでも記録と申し送りでも周知徹底し、介護への対応に結びつけている

	<p>前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の評価で、利用者の個人記録、過去から現在までの主な生活の記録等の蓄積と、その活用とが指摘されていたが、運営者を始め職員がこの一年、様々な記録のやり方を試行し、現在では全員が実施可能な記録法で、当面進めることとしている。少人数(5名)のホームの特色かもしれないが、利用者一人ひとりの症状について僅かな変化にも各職員が気付き、直ちに対応が出来る</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の評価から運営者、職員は毎日の介護の進め方に、カンファレンスごとに検討を重ねて来たが、今回はその集大成として、自己評価票の作成が行われた。例えば、胃ろうで寝たきりの利用者が一人居られるが、この方への介護も職員の努力で床ずれもなく安定した生活を送っている</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は、平成19年4月16日より2ヶ月毎に開催している。討議内容は主としてホームの現状や行事の報告等が行われたが、現在では出席者委員からの提案、情報提供等があり、運営者は介護のレベルアップに繋がるものとして、感謝している</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)</p> <p>ご家族アンケートの集計を見ても、ホームでの介護について満足し、感謝をしていることが伺える。特に、運営者が殆ど毎日ホームの運営に関与していて、直接、ご家族や利用者からの話し合いで、問題に対処している</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>電鉄の終着駅に隣接した静かな住宅地のなかにホームが立地している。駅周辺も少しずつ住宅が建ってきたが、古くから住んでいるの方々の方が多いという環境である。グループホームについて、ご存知の方が少しずつ増えて来ている段階であるが、ホーム開設以来6年半、運営者が率先して地域に溶け込むように努めている</p>

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症があっても、障害があっても住み慣れた地域で、家庭的な環境の中で自分らしく暮らせるホーム」でありたいとの理念を掲げている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の、申し送り引継ぎ時に、理念の確認を行ってから介護が始まっている		
2 地域との支えあい					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営推進会議等により、地域の各種組織との交流が進められている。毎年、すぐ近くの私市駅周辺での七夕祭りへの参加で、交流ができることを楽しんでいる		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者を始め職員は、評価の意義を理解し、昨年からの1年間も、日々の介護の改善に当たってきた		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は平成19年4月16日より2ヶ月毎に開催。出席した委員からも各種質問、提案等を頂き、サービスに活かされている		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催によって市役所の職員との交流が深くなり、情報交換が出来て、サービスの向上に繋がっている		
4 理念を実践するための体制					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族には利用料の支払いを、持参していただき、その機会に利用者の近況を詳しく説明させてもらっている。又、ホーム便りも発行している		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関しては、特に苦情は頂いていないが、毎月の支払い時の来訪された時に、話し合いをさせてもらっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者は余りないが、あった際には、新人には付き添い、マン・ツー・マンで教育をしている。少人数のホームのため、アットホームな感覚で、指導ができています		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の教育に熱心で、外部研修には努めて出席させている。	○	介護のレベルは職員一人ひとりのレベルですから、今後とも教育計画によって進めて欲しい。利用者に投薬している薬品の、長期間の場合の副作用についても、ある程度知っていて欲しい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	昨年より地域密着型介護施設の協議会が発足して、不定期ながら交流が行われ、また、各種の情報交換が出来てサービスの向上に役立っている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が無理なく入所できるように配慮しながら、説明や体験入所も行っている		
--	-------	--	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常、利用者とは、同じ目線で共に笑い、楽しむことを社訓とし、毎日それが実行できるよう努力している。そして、信頼関係を築き、思い出を引き出せるようにしている		
--	-------	--	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を聞き出すよう努め、ご家族からの情報も得ながら、介護の基とするようにしている		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの課題分析を集積した記録も含め職員間で検討し、計画を作成をしている。その上で、ご家族とも話し合い、変更も含めて承諾を得ている		
--	-------	--	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しだけでなく、課題があった場合にも、職員とのカンファレンスと個人記録とを基に、介護計画を作成している		
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の種々の都合による支援については、適宜、実施している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	入居の際に、ホームに定期的な往診していただける医師を、主治医とする承諾を頂いている。他科の医師については、家族と医師で相談してもらっている		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化の場合の話し合いを済ませている。また、重度化した場合には、ご家族を含め関係者間でその都度、話し合いをし、職員とも十分に情報交換をしている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の外部研修も行っており、日頃から個人情報には十分配慮した取扱いを実施している		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れに沿いながら、個人のペースを尊重した介護が行われている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、簡単なメニューなども含め、一緒に行うようにしている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		一応の日時は定めているが、必要に応じて対応をしている

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		地域でゴミ拾いボランティアの経験のある方には、散歩時に袋を持参し、歩きながらやってもらっている。個人の自由で過ごしてもらっている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		散歩や買物など、外出を希望する利用者には、出かけられるように支援している

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		現在は不穏な方が居ないので、昼間の玄関ドアは開放したままとしている。
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	定期的な職員による避難訓練を実施している 運営推進会議によって地域との交流が徐々に行われており、今後とも、更に深まるよう働き掛けて欲しい

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事のメニューは、好みと体調に配慮されている。水分も含めた摂取量のチェックはできている
--	----	----	--	--	---

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		狭いながらも季節感を配慮した工夫が行われている
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室では各自、自由に家具類等を持ち込んで生活している